

財政収支(2017年1-3月)

(1) 2017年1-3月における歳入は前年同期比9.9%増。法人税や付加価値税の伸びが大きく、税金は12.0%の増加となった。

(2) 歳出面では、経常移転が前年同期比31.7%増加するなど、歳出全体では21.3%の増加となった。

(3) 財政収支は149億リラの赤字となり前年同期から大幅のマイナス。プライマリーバランスは76.4%減少し、39億リラの黒字。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	131,714	144,735	9.9%
税金	108,543	121,616	12.0%
所得税	22,871	24,972	9.2%
法人税	10,272	12,612	22.8%
付加価値税(国内及び輸入)	31,043	34,878	12.4%
特別消費税	25,318	28,080	10.9%
その他税金	19,039	21,074	10.7%
税外収入等	23,171	23,119	▲0.2%
歳出(b)	131,667	159,657	21.3%
人件費	38,672	41,904	8.4%
物品及びサービスの購入	9,228	11,053	19.8%
経常移転	54,234	71,426	31.7%
資本支出	3,264	4,991	52.9%
支払利子(c)	16,466	18,824	14.3%
その他歳出	9,803	11,459	16.9%
財政収支(a-b)	46	▲14,922	▲32539.1%
基礎的財政収支(a-(b-c))	16,512	3,902	▲76.4%

経常収支(2017年1-2月)

(1) 2017年1-2月の経常収支は、前年同期比26.9%減少し、52億ドルの赤字。

(2) サービス収支は、前年同期比1.1%の減少。うち旅行収支は同8.8%の減少。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

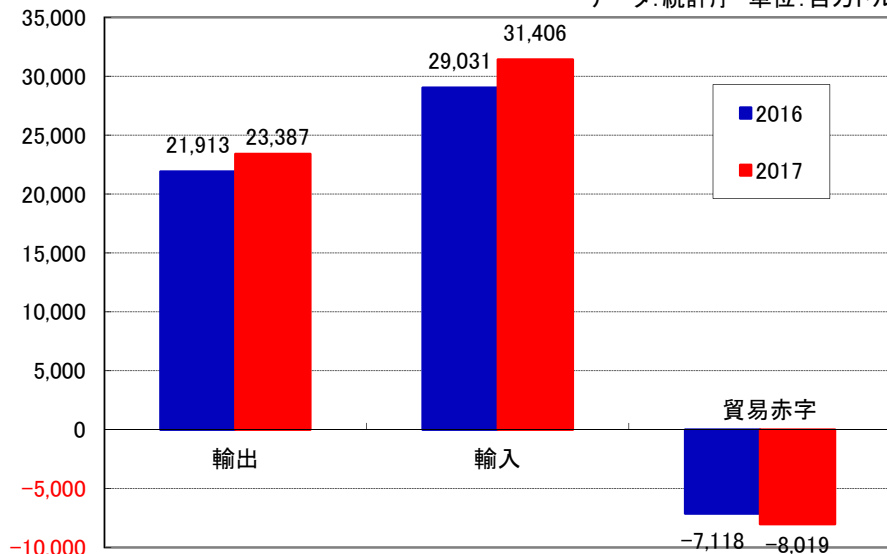
内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲4,166	▲5,287	▲26.9%
貿易収支(物品)	▲4,632	▲5,614	▲21.2%
サービス収支	1,129	1,117	▲1.1%
旅行収支	1,196	1,091	▲8.8%
その他サービス収支	▲67	26	138.8%
第1次所得収支	▲1,162	▲1,108	4.6%
第2次所得収支	499	318	▲36.3%
労働者送金	88	82	▲6.8%
その他第2次所得収支	411	236	▲42.6%
資本移転等収支	15	▲16	▲206.7%
金融収支	▲2,918	▲6,125	▲109.9%
直接投資	▲1,063	▲631	40.6%
証券投資	▲70	▲2,482	▲3445.7%
その他投資	▲2,394	▲1,533	36.0%
外貨準備	609	▲1,479	▲342.9%
誤差脱漏	1,233	▲822	▲166.7%

貿易収支(2017年1-2月)

(1) 2017年1-2月の輸出額は233億ドル(前年比6.7%増)、輸入額は314億ドル(同8.1%増)となり、この結果貿易赤字は80億ドル(同12.6%減)となった。

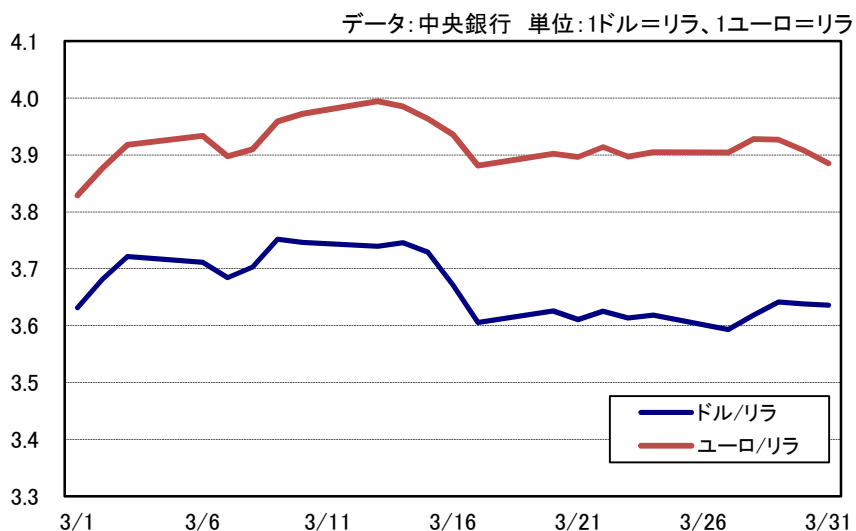
(2) 2017年1-2月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は46.3%(前年47.7%)、輸入額におけるEU向け輸入の占める割合は35.5%(同37.0%)となっている。

データ:統計庁 単位:百万ドル



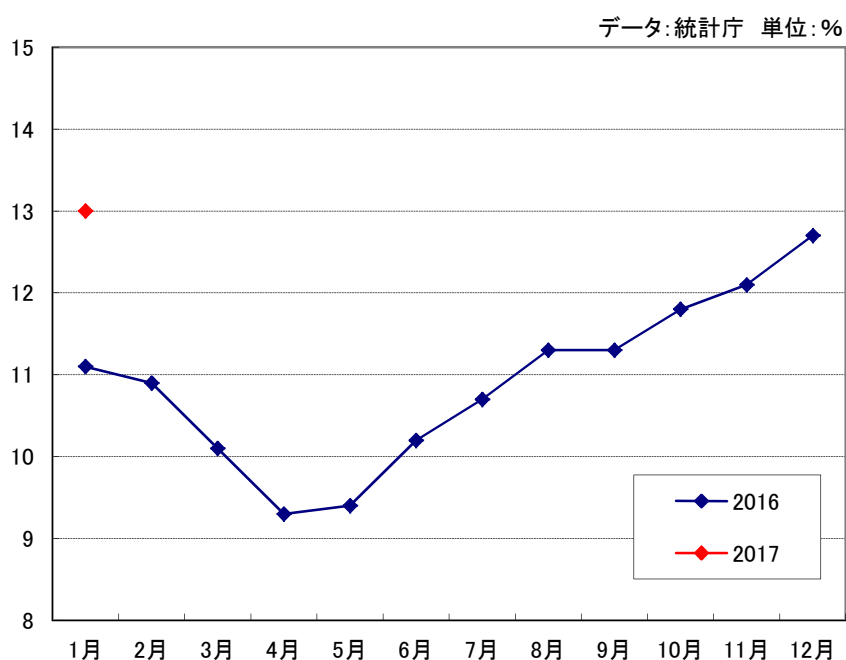
為替(3月)

(1)3月のドル・リラ相場は、上旬は軟調に推移したが、中旬以降はリラが買い進められ、最終的には1ドル=3.63リラとなった。
 (2)ユーロ・リラ相場についても月初からリラが売られる展開となったが、中旬以降やや持ち直し、1ユーロ=3.88リラで越月した。



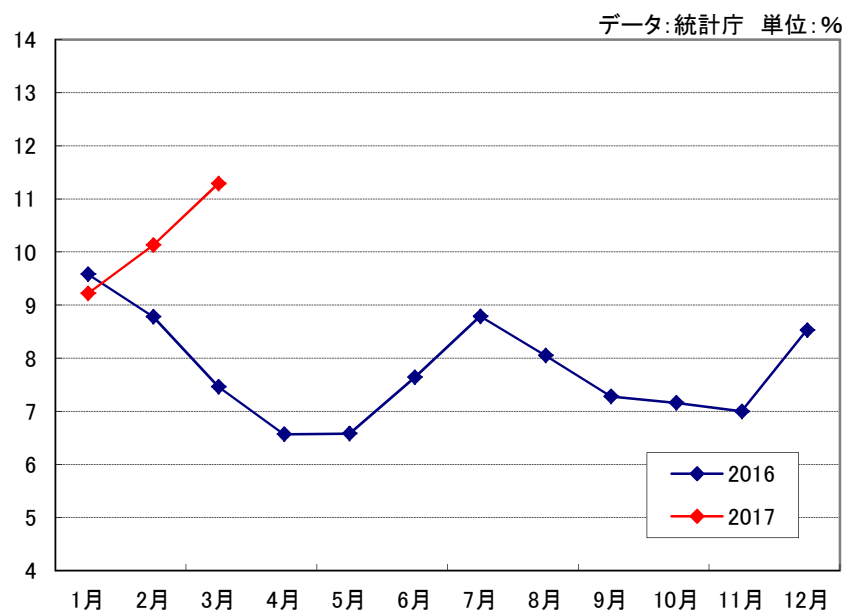
失業率(1月)

(1)2017年1月期の失業率は、13.0%。前年同期からは1.9ポイントの上昇、前月からは0.3ポイントの上昇。
 (2)労働力人口は3,065万人、就労者数は2,667万人、失業者数は398万人。
 (3)男性の失業率は11.9%、女性は15.4%。若年層(15-24歳)の失業率は24.5%となっている。



物価上昇率(3月)

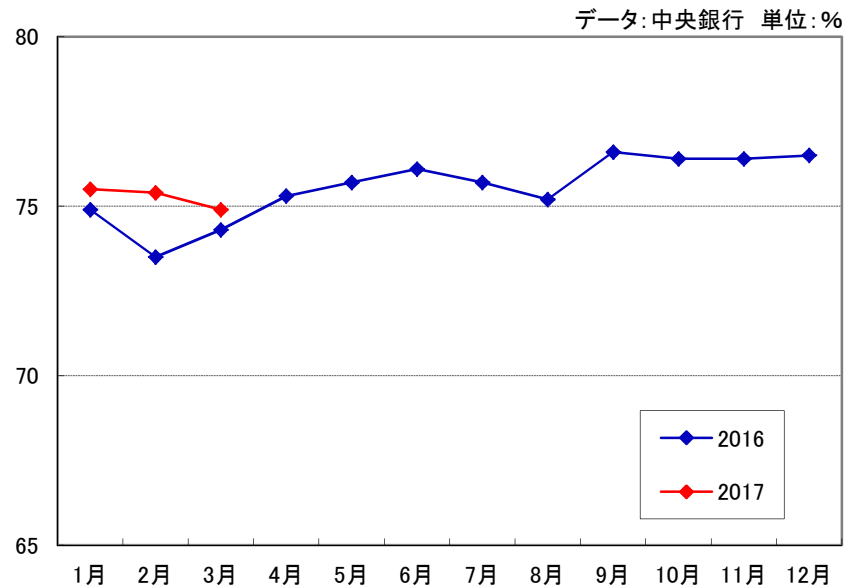
(1)2017年3月の消費者物価は前月から1.02%の増加。年間では11.29%の上昇。
 (2)分野別に見ると、前月と比べて最も上昇したのは衣類・履物類で1.99%。年間で最も上昇したのもアルコール飲料・タバコで21.71%。
 (3)本年末の中銀見通しは8.5%。
 (4)国内生産者物価指数は前月から1.04%上昇し、年間で16.09%の上昇となった。



設備稼働率(3月)

(1) 2017年3月の設備稼働率は74.9%となり、前月から0.5ポイントの下落。前年同月からは0.6ポイントの上昇となった。

(2) 製造業の分野別では、紙及び紙製品(84.1%)が最も稼働率が高く、逆に飲料(54.6%)が最も低い稼働率であった。

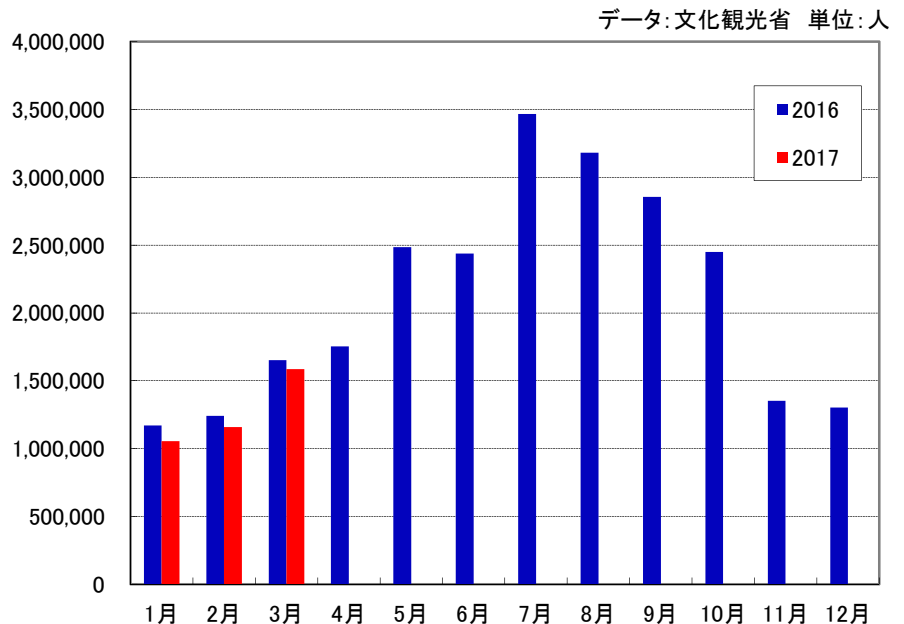


旅行者数(3月)

(1) 2017年3月にトルコを訪れた旅行者は158万人であり、前年同月比3.9%減となった。

(2) 旅行者数を国別に見るとイランからの旅行者数が最も多く26万人で全体の16.5%を占める。以下、ジョージア(17万人)、ブルガリア(14万人)となっている。

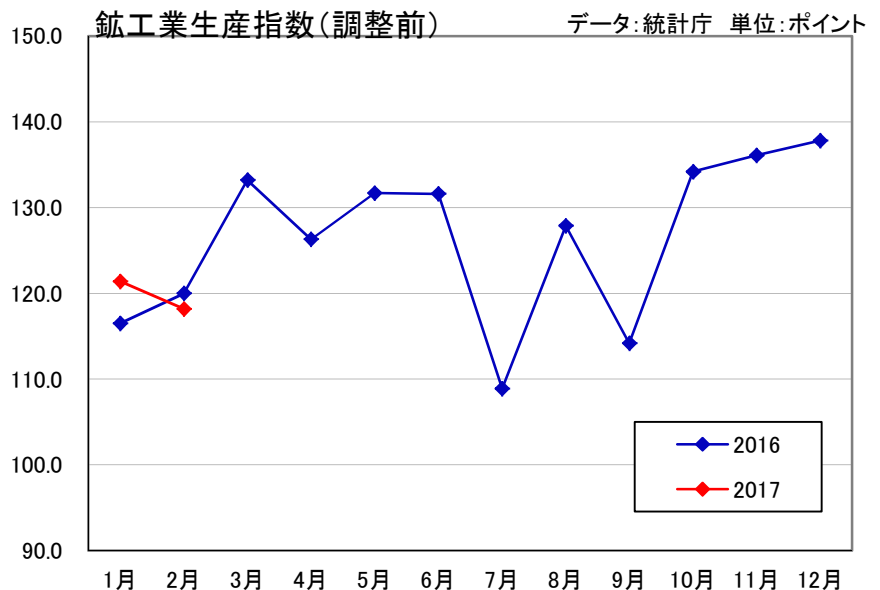
(3) なお、日本からの旅行者は2,973人(前年同月比28.3%減)となった。



鉱工業生産指数(2月)

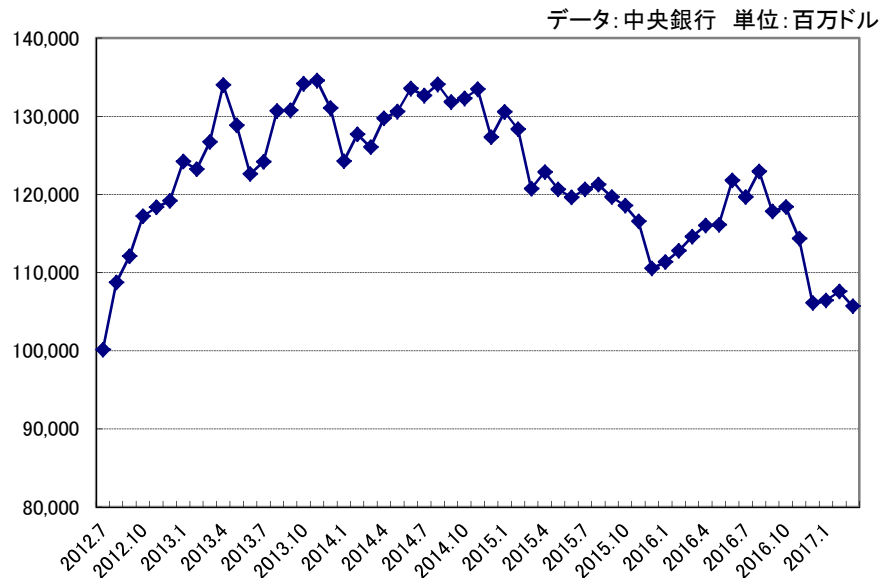
(1) 2017年2月期の鉱工業生産指数(調整前)は118.2ポイント(2010年=100)となり、日数調整後の前年同月比は1.0%の上昇、季節及び日数調整後の前月比は0.4%の下落。

(2) 分野別では、耐久消費財が前月比5.1%増、資本財が同4.6%減となっている。



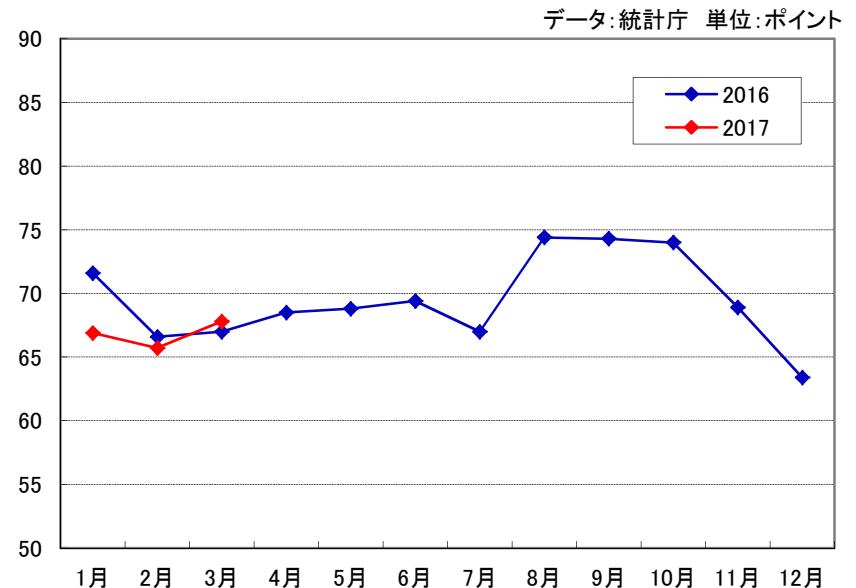
外貨準備高(3月)

(1)2017年3月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,056億ドルとなった。
 (2)外貨準備高は、近年順調に増加していたが、2012年の水準まで落ち込んでいる。



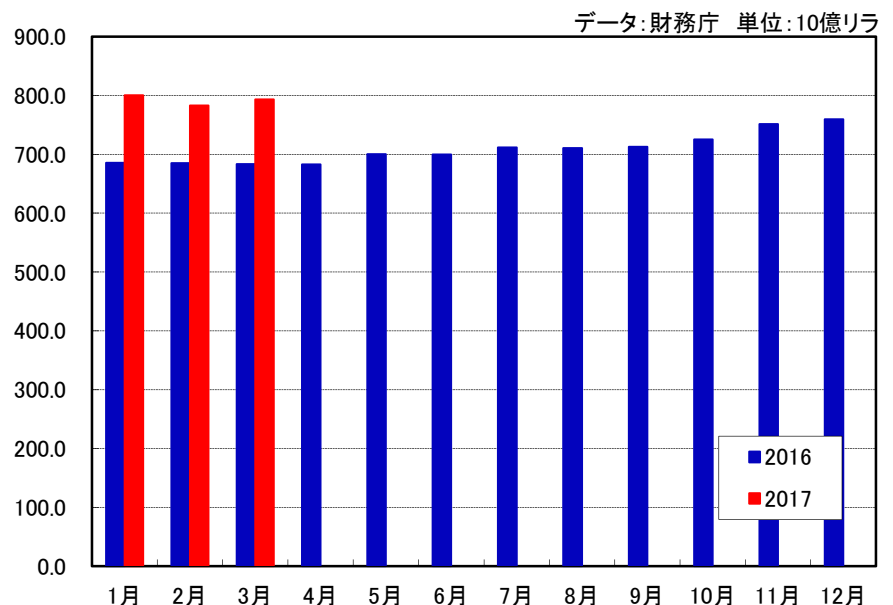
消費者信頼感指数(3月)

(1)2017年3月期の消費者信頼感指数は前月の65.7ポイントから3.2%上昇し、67.8ポイントとなった。
 (2)内訳では、一般経済見通しが5.8%上昇し93.2ポイント、貯蓄可能性が5.6%下落し19.9ポイントとなった。



中央政府債務残高(3月)

(1)2017年3月時点での中央政府債務残高は7,933億リラとなり、前年同期比16.0%増加した。なお、前月比では1.3%の増加となった。
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に60.9%となっている。
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は2.7%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。